



# 日本医療福祉生活協同組合連合会

## 東日本大震災支援ニュース No.29

(2011年3月31日 18時現在)

### 被災地の医療福祉生協の状況

#### ○八戸医療生協



30日、理事1名、職員3名が組合員宅など小中野地域訪問。14軒に訪問し、12件対話。訪問時に見たり聞いたりした組合員・地域の現状や声「うちは床上浸水の被害があった。近所のお宅も床上浸水で、畳がダメになったようだが、うちは1Fがフローリングだったから、ホースでジャバジャバと水を流してヘドロを片づけた。泥は片付いたが、まだ匂いは残っている。床に置いたファンヒーター、洗濯機、冷蔵庫すべてダメになり、エアコンの室外機も流された。家電は無利子で貸し出すそうだが…。体調は変わらず、家族全員無事で幸いだった。他の組合員宅は玄関先まで水が来て、ヘドロやごみを片づけるのに大変だったり、小屋や車庫の中に水が来たりしたお宅も」(3月30日訪問行動報告より抜粋)

#### ○松島医療生協

医療福祉生協連などとチームを作って理事や組合員が組合員宅などを地域訪問。29日は43軒、30日は午前が40軒、午後が46軒と合計129軒を訪問。「一人暮らしで、病院に行けずにいるような人のところを回っています」。6人の理事と1人の監事が30日、地域訪問、事務所詰め、文書発行。30日に「松島医療生協理事会ニュースNo.1」を配布した。(3月30日、4月1日付松島医療生協理事会ニュースNo.1、2より抜粋)

#### ○福島医療生協

当初30日までとしていた東高校避難所への炊き出しについて、被災者の方からの要望を受け、4月2日～5日の4日間を追加で実施することに。(3月29日付、東日本大震災対策ニュースNo.14より抜粋)

#### ○郡山医療生協



新入職員オリエンテーションが終了(写真左)。震災の復興の中で、新入職員オリエンテーションが無事終了。講師団の話題もすべてが震災一色。「医療生協」とはと普段の説明より、この間の日々の職員の活躍ぶりを語られたことが何よりも説得力があり分かりやすい内容に。

郡山市社会福祉協議会からヘルパーステーションに栄養補助食品などの支援物資

が届く。ヘルパー・訪問看護ステーションで活用へ。

事業所を支える職員が安心して働けるようにと、建物が大きな被害を受けて組合員センターに引っ越してきたつくしんぼ保育園（写真右）が31日、満了式を迎えた。（3月31日付対策本部ニュースNo.15）

「4.7保健デーは、4月9日に市内イトーヨーカドー前でやります。大勢で集まって元気よくとりくもうと準備を進めています。風船も用意して配ります」（3月31日組織部の小抜（オヌキ）氏からの電話より）

「明日から新年度、辞令交付式です。新規事業開始（震災で遅れますが）ということもあり、16人の新入職員を迎えます」（3月31日付震災ニュース）

## ○福島中央市民医療生協

歯科の避難所支援について、摂食・嚥下障害で困っている方や、緊急のため入れ歯を入れずに避難したために食事で苦勞している方などの実態が把握できておらず、高齢者が比較的多い避難所には直接赴いて支援するしか方法はない。高齢者が噛めない状態でのおにぎりやパンは窒息の危険があり、正しい知識を避難所の責任者に伝えていくことが重要。4月1日より、福島市健康増進課と連携し、東京ふれあい医療生協から寄せられた「フリーズドライのおかゆ」等をもって上松川診療所の歯科医師1名と、歯科衛生士1名が地域の避難所へ医療支援に行きます。

（31日付、地震対策本部日報より抜粋）



利用者様の不安を少しでも取り除くと共に被災された方々へのメッセージにもなればと思い、老人保健施設にじのまちでは、お花紙を丸めて貼り付ける作業活動を始めました。開始当初は少人数での取り組みでしたが、利用者様同士で呼びかけが行われ、多くの利用者様の協同で2週間で完成しました（写真）。この作品には私達の想いがたくさん込められています。被災された方々に少しでも力になってくれることを

願います。

「頑張ろう 一人で出来ぬ大作は 総力挙げて 今日完成」 90代男性作  
（にじのまち 菅野江里子氏・中牟田和季氏からの情報提供）

## ○みやぎ県南医療生協

4月16日に理事会を開催予定。地域の状況と対応として、物資は集まっており、今日31日は避難所に衣類を届けた。また（南東に）20～30キロ離れた山元町を調査。（3月31日梅津専務との電話より）

## 支援状況

### ○医療福祉生協連

3月30日、イスラエルコープから日本生協連にコンタクトのあったイスラエルのNGO イスラエルエイドF. I. R. S. T (The Fast Israel Rescue and Search Team)のメンバーと藤谷専務理事が懇談しました。彼らは震災発生直後の13日にすでに来日し活



とでした。

動をはじめています。

藤谷専務より震災の全体状況、原子力施設の事故の状況、医療福祉生協の事業所や組合員の状況、薬が不足していること、各施設の事故による避難指示で住民の生活が大変な状況になっていること、不十分な情報のなか放射能の恐怖におびえた生活が強いられていることについて説明をしました（写真上）。

その後、以下の3つをお願いしました。

①甲状腺の治療薬が（チラージンS）が不足しているので援助してほしい

②ヨード剤が不足しているので援助してほしい

③放射線測定器がないので援助してほしい

メンバーの方は「約束は出来ないが、本国に照会してみる」とのことでした。また、チラージンSについては4月15日にイスラエルより日本に送る予定となっているが、それより前に届くように努力したいとのことでした。

## ○ながおか医療生協

「4月3日に医師1名、事務3名が松島海岸診療所へ訪問します。4月3日と4月4日に南相馬市から新潟県長岡市へ集団避難されている体育館へ巡回診療をします。医師1名、看護師1名、他に理学療法士、トレーナー、組織担当、ケアマネ、合わせて6名で現地聞き取りを行います」「しっかりと聞き取り具体的な支援に繋がりたいと思います」。（3月31日付高橋専務理事からのメールより抜粋）

## ○栃木保健医療生協

第1次派遣チームが3月27日から3日間の任務を終了。長期的な支援を呼び掛け。（3月31日付、東日本大震災対策本部ニュースNo.8）

## ○医療生協さいたま



30日、医師2名、薬剤師1名、看護師1名、事務1名が第7班医療支援隊として宮城県に出発。4月2日までの支援です。横断幕は熊谷の地元の団体に依頼したところ、快く無償で作成してくれました（写真）。

義援金は380万円を超えています。

（3月30日付、東日本大震災対策本部ニュースNo.20等より一部抜粋）

福島原子力発電所の近くから避難してきた妊婦さんが埼玉協同病院で無事出産。元気な女の子がうまれました。31日、NHKテレビとテレビ埼玉から取材。放送時間は次のとおりです。

①NHK

16:00 ニュース

17:10 首都圏震災ニュース

18:40 首都圏ニュース

19:00 ニュース7

——のいずれかで放送。

## ②テレビさいたま

17:45 と 21:30 のニュースで放送されます。

## ○医療生協かながわ



宮城県塩釜市の災害支援拠点病院で22日から支援に入った本部経理の鈴木氏の現地支援レポート「24日の水曜日からは医師・看護師・理学療法士・事務といったようにチームを作って避難所訪問をしました。避難所では血圧をはかったり、お年寄りに声をかけたりしました。支援者の中には、涙を流しながら話を聞いている方もいました。避難所である体育館の中はとて

も重苦しい雰囲気でした。その中でも子供たちはとても元気で体を動かし、『遊びたい』と私に声をかけてきました。

震災から時間が経つにつれて支援の形も変わっていくのだと思いました。しかし医療支援で行っているのに医療支援以外のことを提案していいのか悩みましたが、その日の総括の際に提案しました。支援に来ている医師たちも賛成してくれて、翌日から子供たちとサッカーをしたり鬼ごっこをしたりという支援が加わりました。」(3月30日付『東日本大震災』対策本部ニュースNo.25より抜粋)

## ○神奈川北央医療生協

3月30日、第1次送金分として医療福祉生協連の義援金口座に479,434円を振り込み。(3月30日付『東日本大震災』対策本部ニュースNo.24より抜粋)

## ○富山医療生協



3月29日、富山協立病院3階会議室にて震災支援者報告会を開きました(写真)。100人が参加し、報道6社からの取材があり、30日付の朝日新聞、富山新聞、北日本新聞に報告会の内容が掲載されました。

3月27日、富山県生活協同組合からトラックと運転手1名の協力を受け、事務1名が郡山医療生協へ衛生用品、食糧等の救援物資を届けました。

4月4日より第7次支援として看護師2名が宮城県塩釜市の坂総合病院へ。4月11日からは看護師2名が宮城県塩釜市坂総合病院へ、事務1名が仙台市の長町病院へ支援に行く予定です。(3月30日付、支援No.11より抜粋)

## ○浜北医療生協

「震災発生後、すぐ義援金活動に取り組んできました。今回の活動はかつてないほど、急速に広がった活動で、呼びかけた役員も驚くばかりでした。私たちの青春時代

に『燎原の火のごとく』という言葉がよく使われましたが、今回の運動はまさにその言葉のようでした。支援物資があつという間に山のように積まれ、医学生や若いお母さん、組合員が一体となってトラックを送り出す。そんな光景が何回も続きました。支援物資の停止をした今も物資が持ち込まれ、組合員ルームが一杯になってきました。臨時で借りた倉庫にも、年齢や男女別、種別に分けられた衣服が梱包されて残っています。何とかこれも被災地の役に立って欲しいと考えています」。

集まった義援金の総額は、324万円。郡山医療生協、福島医療生協、福島中央市民医療生協へのトラック便5回等の費用にあて、残りを新聞社2社へ各50万円を届けたほか、医療福祉生協連に100万円を31日送金。（3月31日付安井専務理事からのメール）

## ○大東四条畷保健生協

4月10日より、看護師1名、介護福祉士1名を第3陣として宮城県に派遣することが決定。31日夕方、近隣のスーパー前にて3回目の募金行動に取り組み。

## ○ヘルスコープおおさか

支援募金は3月30日までに、医療福祉生協連への総金100万円含め6,618,828円に。また、第3次から第10次までの医療支援は計14名に。（3月31日付東北地方・太平洋沖地震支援活動ニュース第11号より抜粋）

## ○尼崎医療生協

第7次救援物資、30日に発送！ 宅急便が被災地の医療生協に直接届くようになり、医療福祉生協連と調整のうえ、福島医療生協、浜通り医療生協、郡山医療生協の三医療生協に直接発送。今回の救援物資の主なものは、レトルト粥、紙おむつ、リハパンツ、生理用品、新品の肌着など、22箱分です。31日には現地に届く予定。この第7便で、救援物資輸送の累計は、342箱に。

宮城県仙台市を中心に被災地域の病棟支援など医療支援に携わる阪上師長、石川看護師の報告「3次（救急）からの回復期患者さんの転院が多いようです。やはり、親族や自宅の被災などでなかなか退院できない状態とのことです」

（3月30日付東日本大震災救援ニュースNo.15より抜粋）

## ○ろっこう医療生協



灘診療所の土曜・月曜の午前診療を担当している千葉医師は、大船渡市で月～木曜日に夜間専門の診療所を開業しています。現地の病院などをまわり、被災者の医療活動に尽力されています。千葉医師よりメッセージが届きました。

「今回の震災において日赤や医療福祉生協の素早い応援体制には心より感謝しています。皆様方の過去の経験が今の東北において非常に心強い支援になっていることは疑いもない事実です。皆様の力でどうか東北、東日本を支えてください、そして日本を支えましょう」（写真：釜石市で医療活動に従事する千葉

医師）

## ○広島中央保健生協

31日に、寄せられた支援物資を福島県の郡山医療生協と浜通り医療生協に宅急便で送付。(3月31日付支援対策ニュースNo.16より抜粋)

## ○ひかわ医療生協

宮城県多賀城市文化センターなどに災害支援に入っている大橋看護部長の現地報告「最終日の今日(30日)は、午前中、地域回りで、夜はERの準夜勤。地域回りでは、避難所にも行けない小さな子どものいる人や移動の困難な人が車もなく、孤立しているようで、歩いて支援物資を持ち運び」。(3月30日付東北関東大震災支援ニュースNo.5より抜粋)

## ○香川医療生協

東日本大震災支援本部(香川医療生協など4組織)は、毎週金曜日の昼休みにCOMCOM会館前に新品の「マスク」「紙おむつ」「下着」「歯ブラシ」など支援物資を持ち寄ることを決定。職員ならびに組合員に協力を呼びかけ。第1回目は、明日4月1日。(3月31日付ニュースNo.284)

## ○大分県医療生協

第3次支援団の看護師2名、事務1名が31日に出発。また、浜通り医療生協の小名浜生協病院にペットボトル2リットル×6本入りを50箱宅配便で送付。また、歯科クリニックから歯ブラシなどの支援物資も送付。(3月31日支援ニュースNo.6)

義援金総額(3月31日現在)

**5666万1816円**(39生協、個人、事業者)

**医療福祉生協連は義援金口座を開設しています。**

災害義援金口座は次のとおりです。

(専用口座)

三菱東京UFJ銀行(0005)原宿支店(店番627)

普通預金 0041240

日本医療福祉生活協同組合連合会 東日本大震災義援金口

※振込元に生協名を入れてください

寄せられた義援金は地方公共団体、公的機関等を通じて被災した地域への支援に使われます。義援金についてのお問い合わせは担当(椎野)までお願いします。

---

担当：江本 (at\_e@hew.coop) ・丸山 (kj\_m@hew.coop)

電話：03(4334)1580、F A X：03(4334)1585